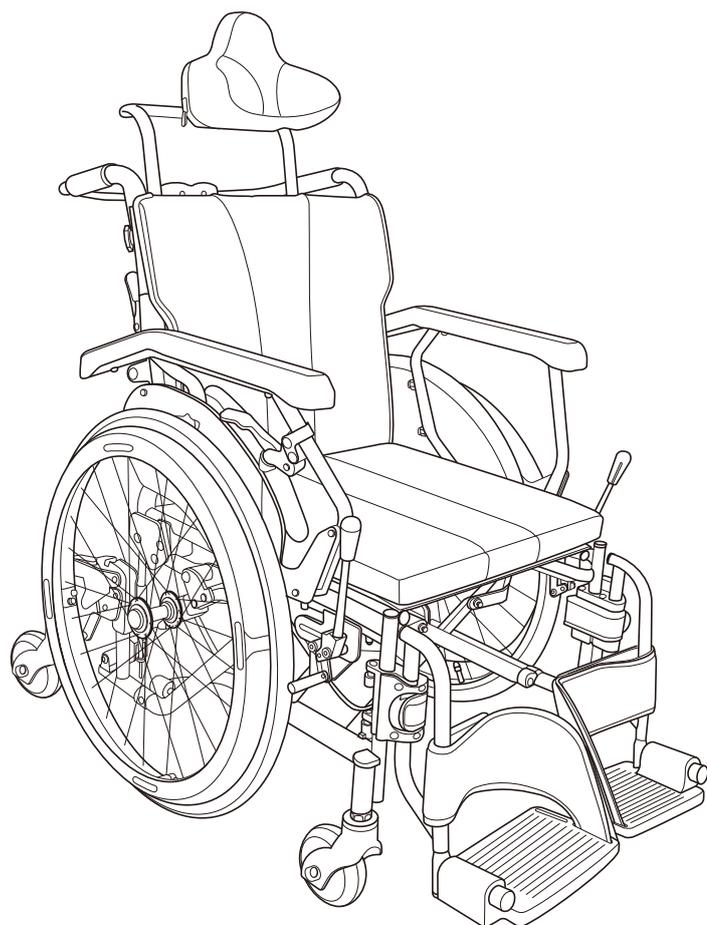


取扱説明書

STS-1



はじめに

この度は、弊社製品をお買い求め頂き、誠にありがとうございます。
ご使用前に本書を必ずお読みになり、十分に理解をした上でお使いください。
また、本書はいつでもご覧になれる所に大切に保管しておいてください。

目次

はじめにご確認ください	2
使用目的	2
特徴	2
安全上のご注意	2
各部のなまえ	6
使いかた	7
ブレーキのかけかた	7
車いすの開きかた	7
車いすのたたみかた	9
シートの取り付け・取り外し	10
乗り降りのしかた	11
フット・レッグサポートの開閉・取り外し （スイングアウト機能）	12
各部の調節のしかた	13
フットサポートの高さ調節	13
バックサポートの角度調節 （リクライニング機能）	13
ヘッドサポートの取り付け・取り外しと 調節	14
バックサポートの張り具合調節	15
リクライニングレバーの取り付け位置変更	16
使用上のご注意	17
保守・点検	17
消耗品、交換部品の確認	17
走行上のご注意	18
段の上がりかた、下りかた	18
困った時には	19
アフターサービス	裏表紙
保証	裏表紙
仕様	裏表紙

はじめにご確認ください

本製品ご購入後にはじめて梱包箱をあけるときに、下記の商品がすべて入っていることを確認してください。

- ・車いす本体 *1台
- ・背アウターシート *1ケ
- ・座アウターシート *1ケ
- ・レッグサポート *左右各1ケ
- ・ヘッドサポート *1ケ
- ・フット・レッグサポート 左右各1ケ
- ・工具（スパナ2ケ 六角レンチ5mm・4mm・3mm各1ケ）
- ・取扱説明書（本書）
- ・保証書

ご使用前の準備は、下記のページをお読みください。

- ・P7 車いすの開きかた
- ・P10 シートの取り付けかた
- ・P14 ヘッドサポートの取り付けかた

使用目的・特徴

本製品は室内用の手動式車いすで、一人乗り用です。日常生活用に設計されており、特殊な使用目的（スポーツ・入浴など）のものではありません。

リクライニング（背角度調整）機能を装備しています。

※本製品は構造上、平坦な場所でも人が乗っていない状態では、キャストが接地しないことがあります。使用者搭乗時には接地しますので安全上の問題はありません。

安全上のご注意

ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。この取扱説明書では、お使いになる人や他の人への危害・物的損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを次の表示と記号を使って説明しています。表示と記号の意味をよく理解したうえで本文をお読みください。

【表示の意味】



危険

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが予想される内容を示しています。



警告

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、重傷を負う可能性が予想される内容を示しています。



注意

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性および物的障害の発生が想定される内容を示しています。

【記号の意味】



警告・注意を促す内容があることを告げるものです。



禁止の行為であることを告げるものです。



行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

危険



スピードを出さないでください。

スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。



リクライニングを倒した状態では、車いすの上で立ち上がらないでください。車いすの重心バランスが崩れて、転倒・転落の恐れがあります。



自走型であっても自力で操作不可能な坂道等では、介助者を伴ってください。

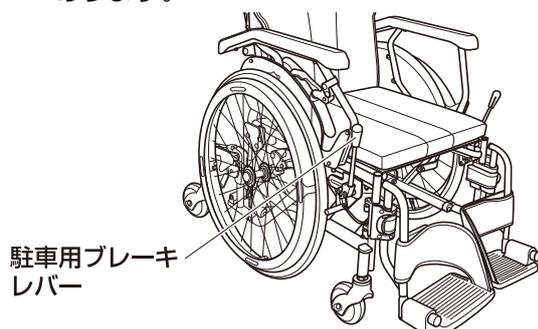
警告

 乗り降りの際にはフットサポートに乗らないでください。
駆動輪が浮き上がり、転倒する恐れがあります。

 走行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。
転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。

 リクライニングさせた状態で乗り降りしないでください。
転倒などの事故やけがにつながる恐れがあります。

 乗り降りの際には駐車用ブレーキレバーに体重をかけないでください。
レバーが破損・変形し、転倒する恐れがあります。



 使用する前に、両側の背折れジョイントが確実にロックされていることを確認してください。
ロックされていないと、使用者が後方に転倒する恐れがあります。

 フット・レッグサポートを持って車いすを持ち上げないでください。
フット・レッグサポートのロックが外れ、けがをする恐れがあります。

 フット・レッグサポートを開いた状態で走行しないでください。
事故やけがにつながる恐れがあります。

 フット・レッグサポートを閉じた後は、必ずフックで固定されたことを確認してください。
事故やけがにつながる恐れがあります。

 乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。
ブレーキがかかっていないと車いすが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。駐車用ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。

 乗り降りの際は、シートを元の状態(背角度100度)にもどして、必ず両輪に駐車用ブレーキをかけてください。
車いすが動きだし、事故やけがをする恐れがあります。

 リクライニング操作する際は、使用者の操作しない側の手や腕がアームサポートよりも外に出ていないことを十分に確認してから行ってください。
手や腕をはさみけがをする恐れがあります。

 リクライニングさせた状態で段を乗り越えたり、スロープを通過しないでください。
転倒など事故につながる恐れがあります。

 走行中は、フット・レッグサポートの開閉、リクライニング操作等をしないでください。
事故やけがにつながる恐れがあります。

 駐車用ブレーキは定期的に安全点検を行ってください。
(期間の目安：1か月に1度)

 使用者を乗せたまま車いすを持ち上げる時は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけ、フレームを持ってください。
フレーム以外の部分を持つと、部品が外れて使用者の転倒または落下などの事故やけがにつながる恐れがあります。

 乗り降りの際に、上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。
けがをする恐れがあります。

 タイヤの空気圧低下に注意し、必要な場合は補充してください。
タイヤの空気圧が低下すると、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。また、空気圧が低下した状態で使用すると、タイヤやチューブを傷め、破損する恐れがあります。

警告

- 

各部を調整する場合は平坦な場所で行ってください。
車いすが動きだし、事故やけがにつながる恐れがあります。
- 

車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。
坂道等の傾斜のある場所では、駐车用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。
- 

前かがみの状態など、車いす前方向へのみ体重をかけるような状況は、座面後方が浮き上がり前方に転倒する恐れがあります。

- 

車いすの分解、フレーム構造を変更するような改造は行わないでください。
製品の強度や耐久性が損なわれ、転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。また、故障の原因になります。
- 

手押しハンドル、本体フレームおよびバックサポートのポケットに重いものを入れたり、吊り下げたりしないでください。
過度の荷物はバランスを崩し、転倒する恐れがあります。

注意

- 

この車いすは一人用です。二人以上の乗車や、目的以外での使用はしないでください。
- 

フレームに最大荷重が記載されている場合は、荷重制限（積載物も含む）を守って使用してください。
- 

車いすをたたむときは、シートパイプを握らないでください。
手をはさみ危険です。
- 

使用者が乗車中は、背折れジョイントの操作は絶対に行わないでください。
背折れジョイントのヒンジ部分で手や腕をはさむ恐れがあります。
- 

背折れジョイント、フット・レッグサポート、リクライニングの可動部等に指や身体をはさまないように注意してください。
- 

フットサポート下面は地上より50mm以上あげた状態で使用してください。
- 

走行中、足がフット・レッグサポートから落ちないようにしてください。
- 

走行中、身体を乗り出さないでください。
走行の安全を損ない危険です。
- 

フットサポートを足で上げる場合は、素足では行わないでください。
けがをする恐れがあります。

- 

折りたたんだ車いすを開く時に、シートパイプを握って押し下げないでください。
手をはさみ危険です。



- 

使用する前に駆動輪、キャスト、駐车用ブレーキ等のネジを点検し、ゆるんでいるときは増し締めをしてください。
ゆるんだ状態で使用されると、部品のガタツキや脱落などの原因となり事故やけがにつながる恐れがあります。

- 

暖房器具に車いすを近づけないでください。
タイヤの表面が溶けたり、破損することがあります。



- 

エアタイヤの場合、空気が膨張し、大きな音をたててパンクすることがあります。また、ガススプリング（ガスダンパー）は80度以上の高温下、-20度以下の低温下で機能に不具合を生じる恐れがあります。破損した場合は、乗車をやめて必ず修理してください。

- 

操作中に異常な音や振動が発生したら、即時に使用を中止してください。
事故やけがにつながる恐れがあります。

- 

段差のあるところを昇り降りするときは、車いすに衝撃を与えないように、ゆっくり操作してください。
車いすの破損や故障の原因となります。

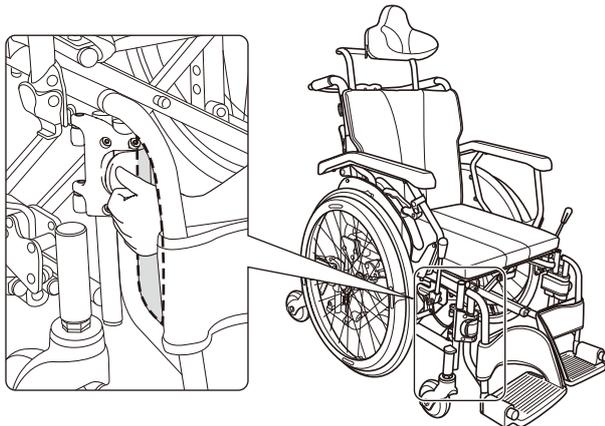
⚠️ 注意

❌ フットサポートの下には足を入れないでください。
足を地面でこすったり、フットサポートやキャストなどに足をぶつけてけがをする恐れがあります。

❌ 段差乗り越え時は充分にご注意ください。また、凹凸のある場所での使用および駐車はさけてください。
駆動輪が接地せず、制動用ブレーキ・駐车用ブレーキが効かなくなる場合があります。

❗ バックサポートの面ファスナーの張り具合を過度に強くしますと、十分に車いすが開かなくなりフレームの変型の原因になります。

❗ フット・レッグサポートのすき間に手や足を入れないでください。
けがをする恐れがあります。



❗ 車いすを自動車に載せる際および自動車から降ろす際は、車いすに大きな衝撃を与えないよう、ゆっくりと静かに降ろしてください。
車いすの破損や故障の原因となります。

❌ シンナー、ベンジン等の溶剤は、使用しないでください。
製品を傷める恐れがあります。

❌ この車いすは室内用です。平坦な場所以外では使用しないでください。

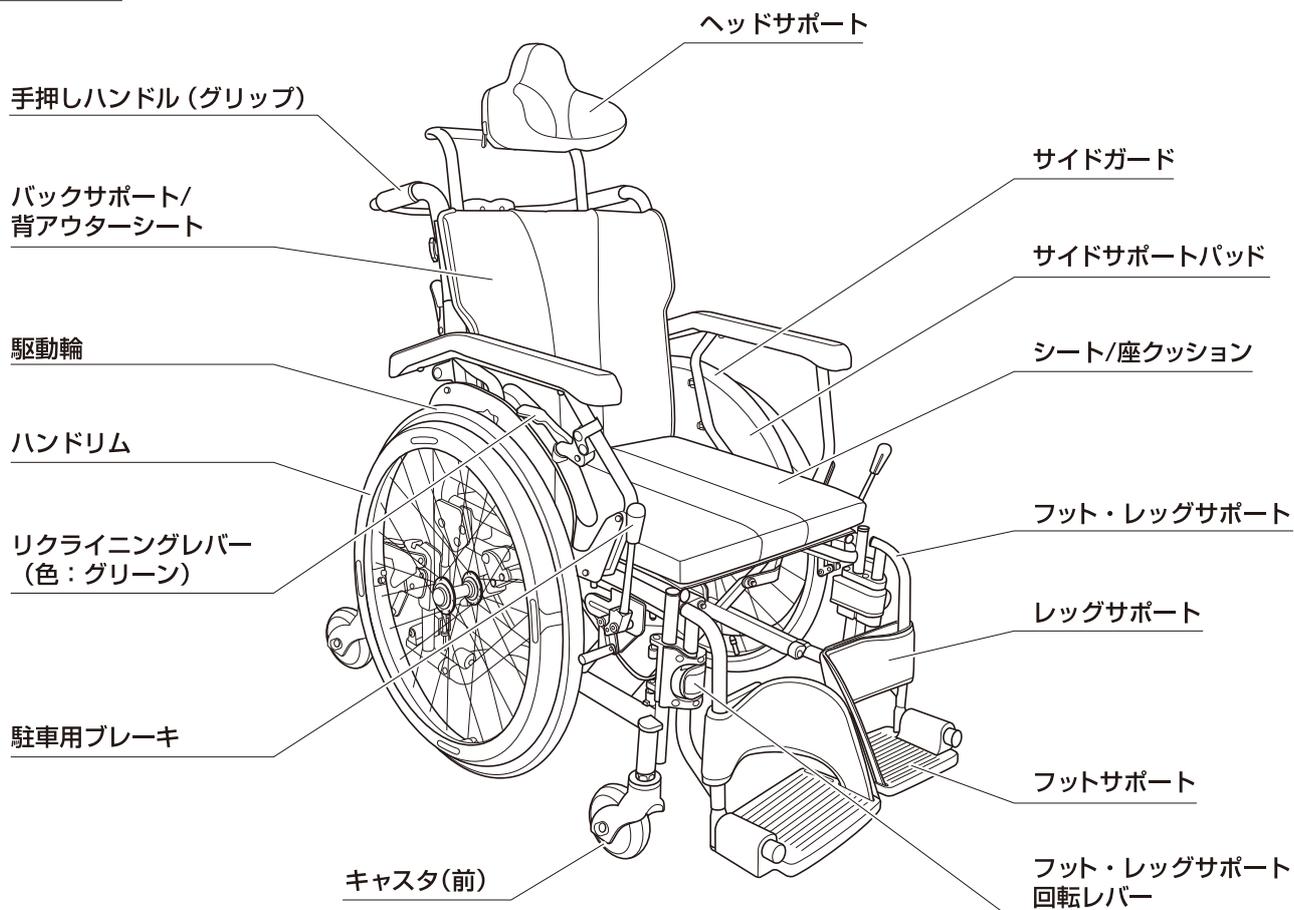
❗ 座シートに奥深く腰掛け過ぎますと、リクライニング操作時に支障を来す場合があります。

❌ ガススプリング(ガスダンパー)の摺動部へ潤滑油などの注油は行わないでください。
注油すると耐久性の減少や油漏れの原因となります。

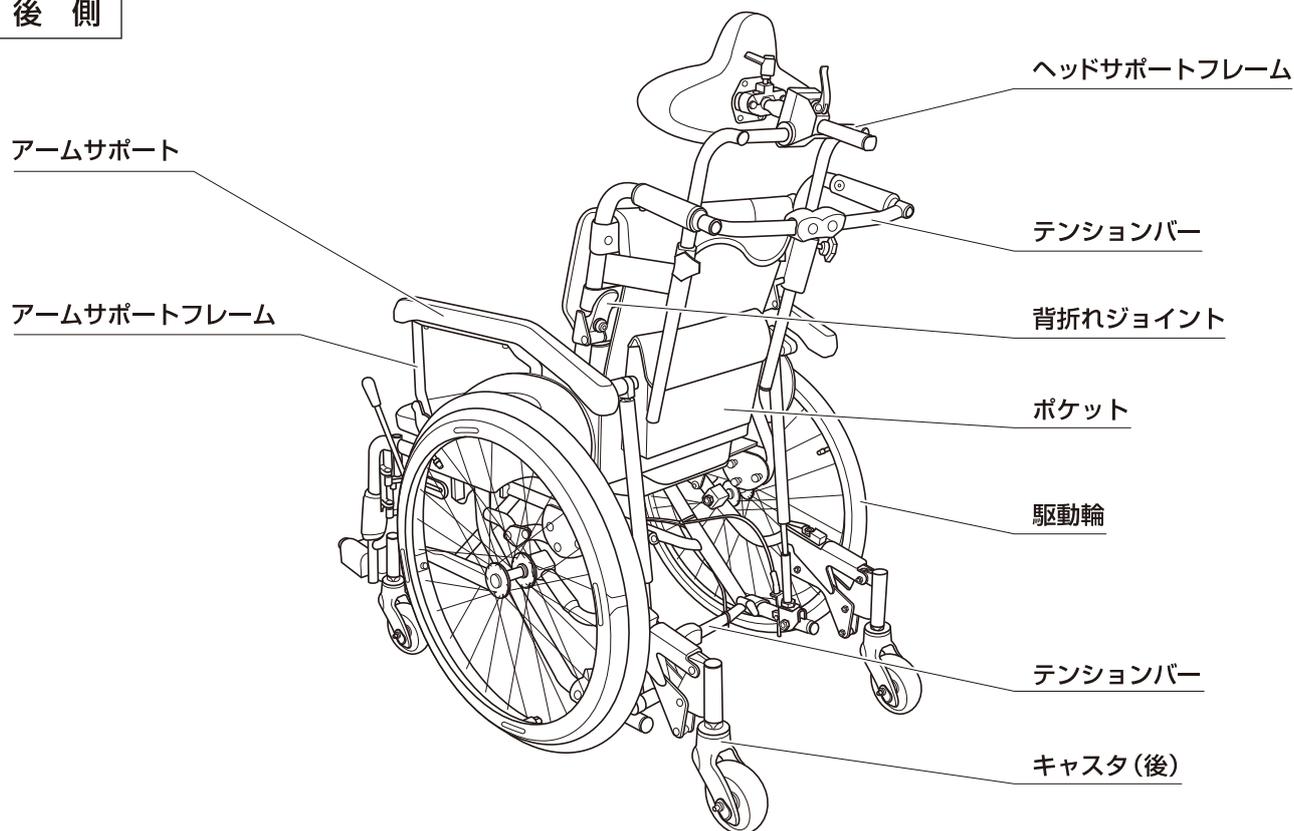
❗ この商品はガススプリング(ガスダンパー)を使用しています。廃棄する際はお買い上げの販売店、または弊社へこの商品の品名とあわせてご連絡ください。

各部のなまえ

前側



後側



使いかた

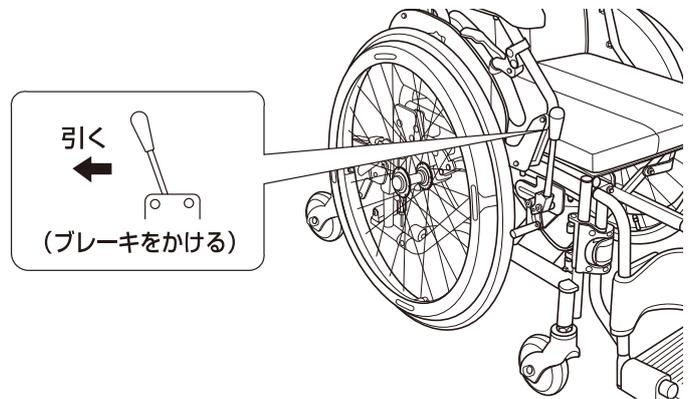
ブレーキのかけかた

⚠ 警告

- ・ 乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。ブレーキがかかっていないと車いすが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。駐車用ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。
- ・ 乗り降りの際には駐車用ブレーキレバーに体重をかけないでください。レバーが破損・変形し、転倒する恐れがあります。
- ・ 車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。坂道等の傾斜のある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。
- ・ タイヤの空気圧の低下、摩耗に注意してください。タイヤの空気圧が低下したり摩耗すると、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。空気の補充をしてもブレーキの効き具合が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。
- ・ 走行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。転倒などの事故につながる恐れがあります。

● 駐車用ブレーキのかけかた

介助者もしくは使用者が、左右の駐車用ブレーキレバーを手前に引いてかけます。ブレーキレバーを前方に戻すと解除されます。



車いすの開きかた

⚠ 注意

- ・ シートパイプを握って押し下げないでください。手をはさんでけがをする恐れがあります。
- ・ 必ず駐車用ブレーキをかけて操作を行ってください。
- ・ 車いすを開くときは各部品が可動しますので、手をはさまないように注意してください。

● 開きかた

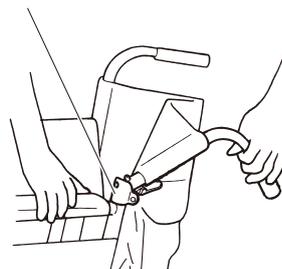
1 駐車用ブレーキのレバーを引いて、両輪に駐車ブレーキをかけます。

2 手押しハンドルを両側とも上げます。

* 背折れジョイントが完全にロックされるまで上げてください。

* このとき、背折れジョイントの開口部に手や指を近づけないでください。手や指をはさんでけがをする恐れがあります。

背折れジョイント



手押しハンドルを両側とも上げる

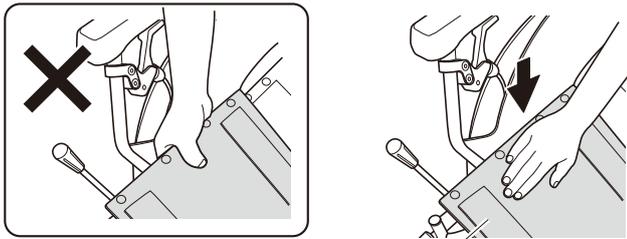


手をはさむおそれあり

3 手押しハンドルを両側とも軽く持ち、車いす本体の後方部を浮かせながら左右に開きます。

4 シートパイプ前部の両端を手の平で押し下げます。

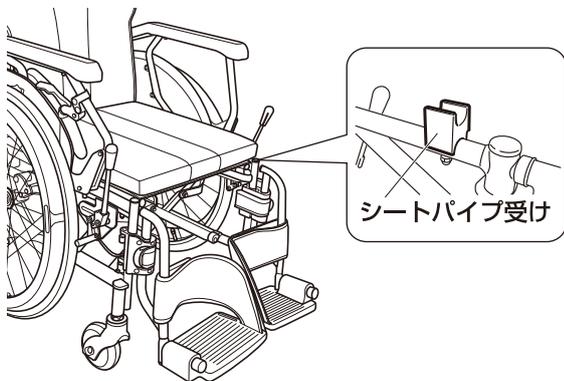
- *シートパイプを握らないでください。
- *シートパイプ前部の中央付近を押し、先端は押さないでください。



シートパイプ

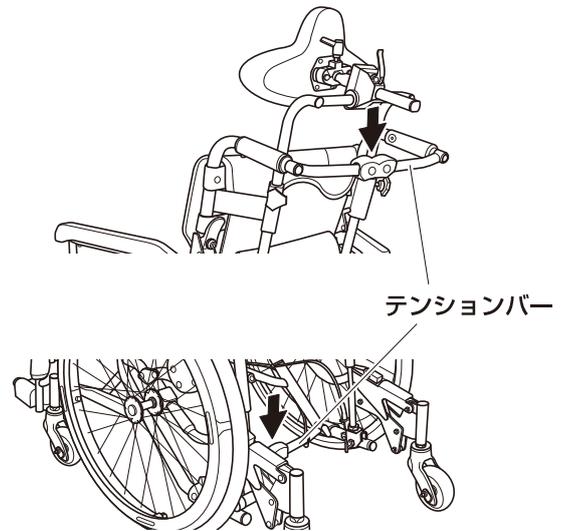
5 シートパイプ受けに、シートパイプがしっかりとハマっていることを確認します。

- *しっかりとハマっていない場合は、シートパイプの中央付近を押しはめてください。押す時は、シートパイプの先端を押しさないでください。フレームが変形する恐れがあります。



- *シートパイプ受けにシートパイプをはめ込むことで、ガタつきをなくす構造になっています。
- *左右のフレームがねじれていると、シートパイプをはめにくい場合があります。そのときは、リクライニングレバーを操作して左右のフレームのねじれを直してください。

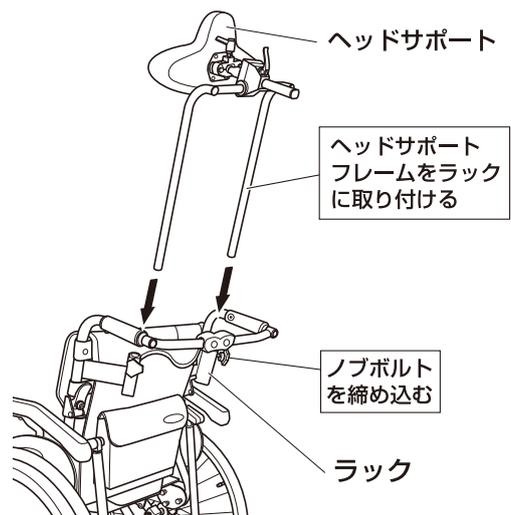
6 手押しハンドルおよび駆動輪内側のテンションバーの中央を持ち、ロックするまで押し下げます。



- *テンションバーは足で踏まないでください。破損する恐れがあります。

7 背アウターシートと座アウターシートを取り付けます。(P.10「シートの取り付け・取り外し」参照)

8 ヘッドサポートを取り付け、ノブボルトを締め込みます。(P.14「ヘッドサポートの取り付け・取り外しと調節」参照)

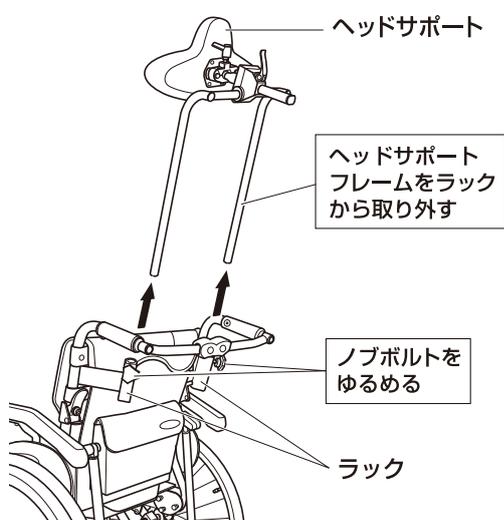


車いすのたたみかた

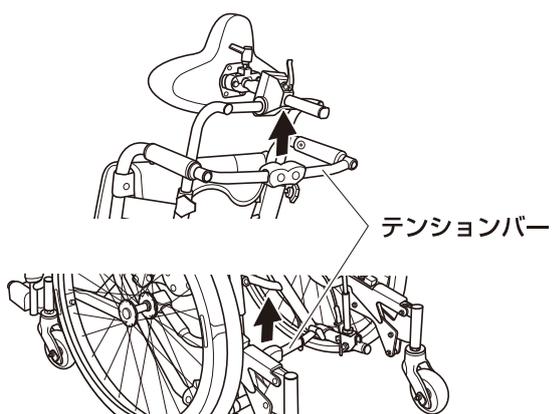
警告

- ・アームサポートを持って車いすをたたまないでください。手をはさんでけがをする恐れがあります。
- ・車いすをたたむときは各部品が可動しますので、手をはさまないように注意してください。

- 1 駐車用ブレーキのレバーを引いて、両輪に駐車ブレーキをかけます。
- 2 リクライニングを元の角度に戻します。
- 3 ノブボルトをゆるめて、ヘッドサポートを取り外します。(P.14「ヘッドサポートの取り付け・取り外しと調節」参照)



- 4 手押しハンドルおよび駆動輪内側のテンションバーを上を持ち上げ、少し折り曲げます。



- 5 背アウターシートと座アウターシートを取り外します。

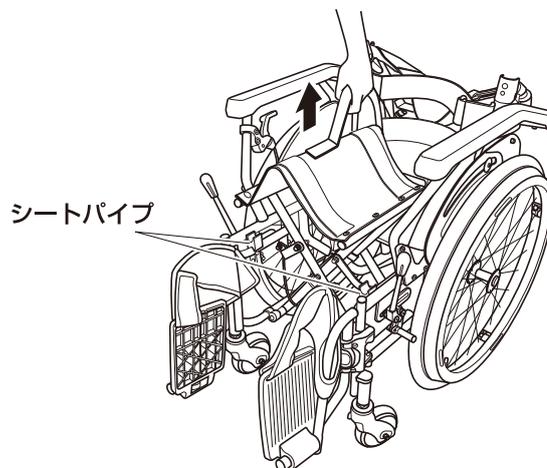
- 6 レバーを引いて、手押しハンドルを両側とも下げます。



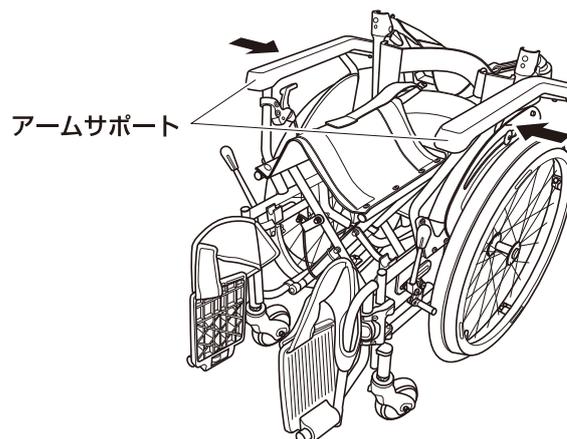
- 7 フットサポートを両側とも上げます。



- 8 座インナーシート前部に付帯のプルアップベルトを引き上げ、シートパイプを引き寄せます。
※座インナーシート後部は可動部の為、持ち上げると故障する可能性があります。



- 9 アームサポートを両側から押し、座インナーシートを折りたたみます。
*車いすをたたむときは各部品が可動しますので、手をはさまないように注意してください。



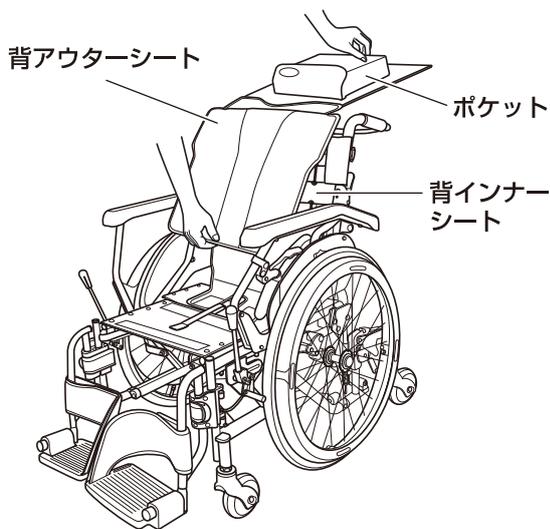
シートの取り付け・取り外し

△注意

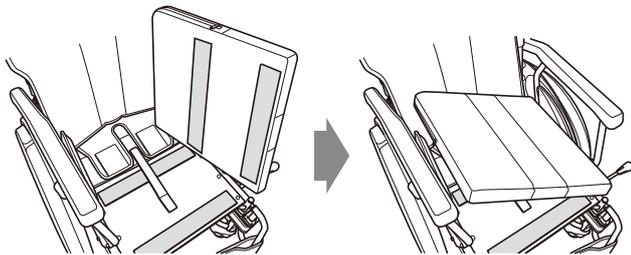
- ・作業は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。
- ・使用者が乗車していない状態で作業してください。
- ・面ファスナーに糸くず、汚れがついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。

●取り付けかた

- 1** 背アウターシートのポケット部を後ろにし、折り目部分が上にくるように車いす本体にあわせませます。
背アウターシートと背インナーシートの面ファスナーを貼り合わせます。

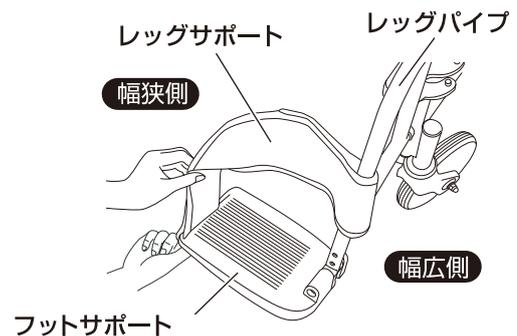


- 2** 座クッションの前後を確認し、車いす本体の座インナーシート表面の面ファスナーと貼り合わせます。
(座クッション裏面に後側を示すタグが付いています。)



- 3** レッグサポートの幅広側の端を車いす本体のレッグパイプに巻きつけ、面ファスナーを貼り合わせます。

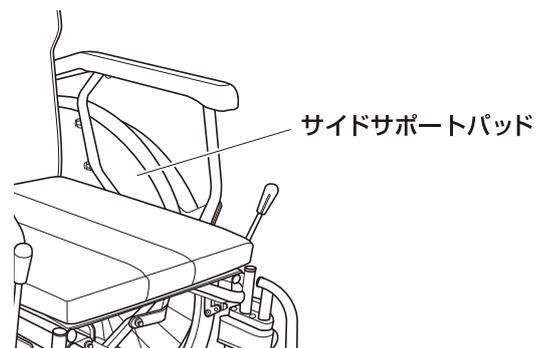
- 4** レッグサポートの幅狭側の端をフットサポート先端の前後どちらかの穴に差し込みます。



- 5** 穴に通したレッグサポートの端を折り返して面ファスナーを貼り合わせます。

- 6** 反対側も同様の作業を行います。

- 7** サイドサポートパッドを取り外した状態の場合は、サイドガード内側の面ファスナーと貼り合わせ取り付けます。



●取り外しかた

*取り外しは、逆の手順になります。

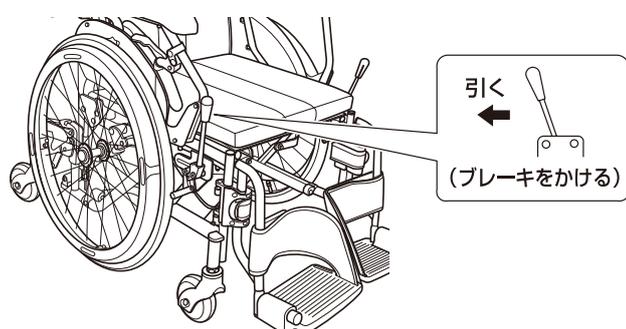
乗り降りのしかた

⚠ 警告

- ・リクライニングさせた状態で乗り降りしないでください。転倒などの事故やけがにつながる恐れがあります。
- ・乗り降り時は、シートを元の状態(背角度 100 度)にもどして、必ず両輪に駐車用ブレーキをかけてください。車いすが動きだし大変危険です。
- ・車いすに乗り移る際、フットサポートの上には乗らないでください。転倒し、けがをする恐れがあります。
- ・上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。けがをする恐れがあります。

● 乗りかた

- 1** 駐車用ブレーキのレバーを引いて、両輪に駐車用ブレーキをかけます。



- 2** リクライニングしている場合は、シートを元の状態(背角度 100 度)にもどします。

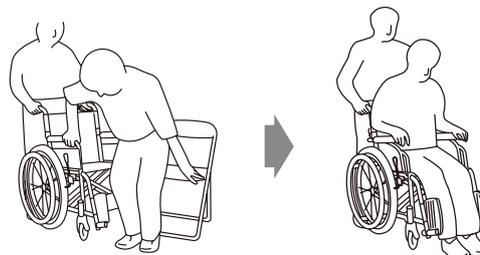
- 3** フットサポートを両側とも上げます。

- * フットサポートの上には乗らないでください。転倒し、けがをする恐れがあります。
- * 上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。けがをする恐れがあります。



- 4** 必要に応じて、「フット・レッグサポートの開閉・取り外し(スイングアウト機能)」(P.12 参照)を行います。

- 5** 車いすをしっかりと保持しながら、ゆっくり乗り移ります。



車いすを保持し
腰を浮かせる

ゆっくり乗り移る

- 6** 「フット・レッグサポートの開閉・取り外し(スイングアウト機能)」を行っていた場合は、元に戻します。

- 7** フットサポートを下げて両足を乗せます



● 降りかた

「乗りかた」と逆の要領で行ってください。

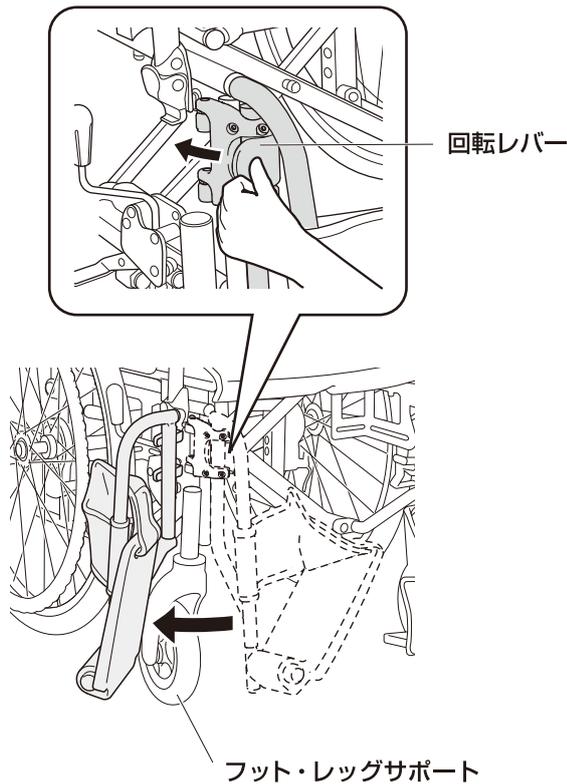
フット・レッグサポートの開閉・取り外し(スイングアウト機能)

フット・レッグサポートをワンタッチで開閉することができます。車いすへの乗り降りの際、フット・レッグサポートが脚にぶつかることなくスムーズに移乗することができます。

<p>△警告</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・フット・レッグサポートの開閉・取り外し・取り付けは、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。 ・フット・レッグサポートを持って車いすを持ち上げないでください。部品が外れて使用者の転倒、転落などの事故やけがにつながるおそれがあります。 ・開閉時、フック部に身体や衣服が引っ掛からないように注意してください。けがをする恐れがあります。 ・乗り降りの際、スイングアウト部に身体や衣服が引っ掛からないように注意してください。転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。
------------	--

● 開きかた

- 1 駐車用ブレーキのレバーを引いて、両輪に駐車用ブレーキをかけます。
- 2 回転レバーを矢印の方向に引き、そのままフット・レッグサポートを外側に回転させて開きます。



● 閉じかた

<p>△注意</p>	<p>フット・レッグサポートを閉じるときに、指をはさまないように注意してください。</p>
------------	---

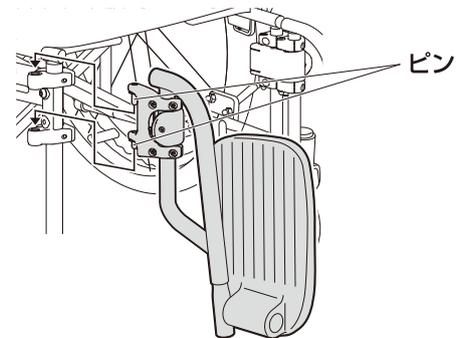
- 1 駐車用ブレーキのレバーを引いて、両輪に駐車用ブレーキをかけます。
- 2 フット・レッグサポートを内側に回転させて閉じます。閉じた後、フット・レッグサポートが完全にロックされたことを確認します。

● 取り外しかた

- 1 駐車用ブレーキのレバーを引いて、両輪に駐車用ブレーキをかけます。
- 2 フット・レッグサポートを外側に開いた状態で、垂直に引き上げます。

● 取り付けかた

- 1 駐車用ブレーキのレバーを引いて、両輪の駐車用ブレーキをかけます。
- 2 車体フレーム側の2つのピンにフット・レッグサポート側の回転軸穴(2箇所)を合わせてはめ込みます。



- 3 フット・レッグサポートを内側に回転させて閉じます。閉じた後、フット・レッグサポートが完全にロックされたことを確認します。

*フット・レッグサポートを閉じるときに、指をはさまないように注意してください。

*フット・レッグサポートを開いた状態で、フット・レッグサポートに力を加えないでください。金具が変形し故障の原因となります。

各部の調節のしかた

⚠警告 各部の調節は必ず駐車用ブレーキをかけてから、平坦な場所で行ってください。

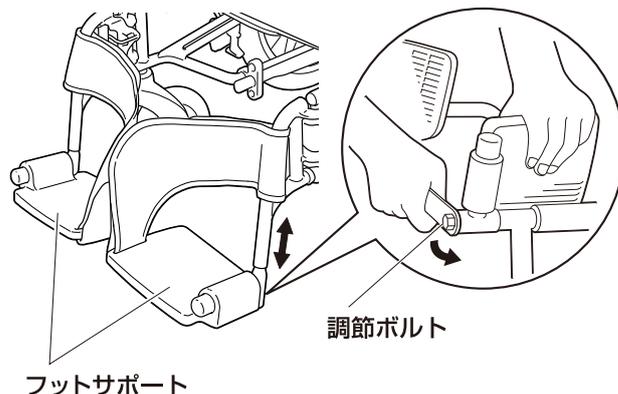
フットサポートの高さ調節

⚠注意 フットサポートは、地上より 50mm 以上あげた状態で使用してください。

- 1 駐車用ブレーキのレバーを引いて、両輪に駐車用ブレーキをかけます。
- 2 フット・レッグサポートの裏側の調節ボルトをスパナなどでゆるめます。
- 3 使用者の足に合わせ、フットサポートの高さを調節します。
- 4 調節を終えたら、調節ボルトを締め付けて固定します。

* 反対側も同様に調節してください。

* フットサポートが回転せず、しっかり固定されていることを確認してください。



バックサポートの角度調節(リクライニング機能)



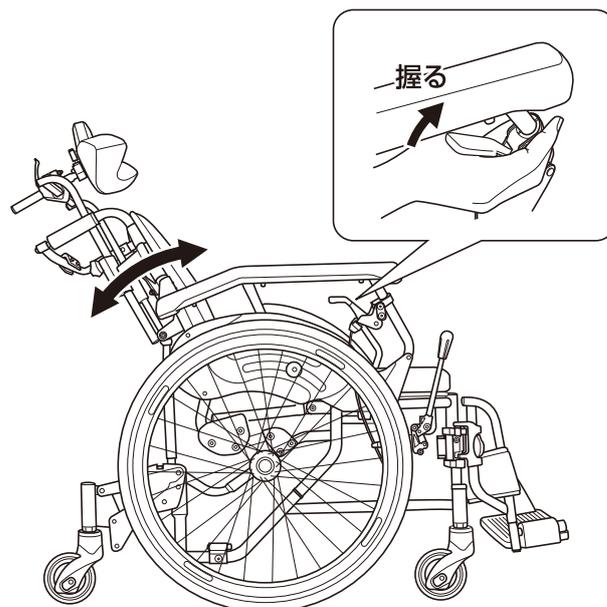
⚠注意

- ・操作は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。
- ・リクライニング操作は、使用者の操作しない側の手や腕がアームサポートよりも外に出ていないことを十分に確認してから行ってください。手や腕をはさみけがをする恐れがあります。

- 1 駐車用ブレーキのレバーを引いて、両輪に駐車用ブレーキをかけます。
- 2 右(もしくは左)のアームサポートパッド下にあるリクライニングレバーを握り、背に体重をかけたり、体を起こしたりしながら背角度を調整します。
( マークが付いた緑色のグリップです。)バックサポートの角度が100~117度の範囲で調節可能になります。
- 3 お好みの角度が決まったら、その位置でレバーを放します。
バックサポート角度が固定されます。
- 4 シートとバックサポートにガタつきがないことを確認します。

* 操作はゆっくり行ってください。レバーの握りこみが不十分だとロックが解除されず、操作ができませんのでご注意ください。

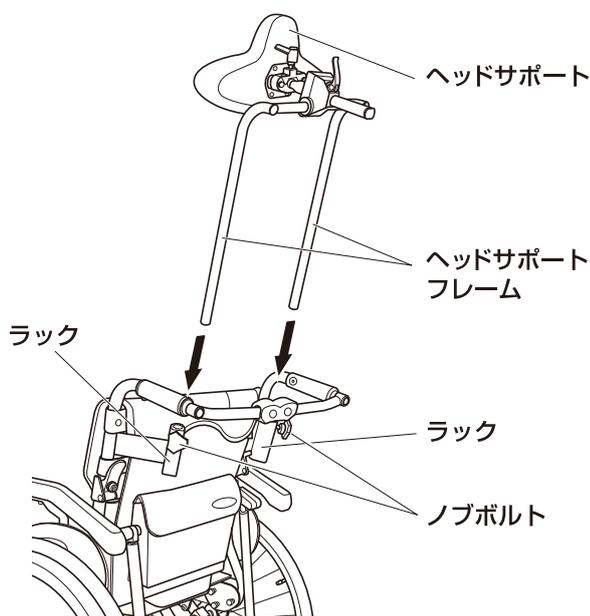
* 使用者の体格や状態、シートおよびバックサポートの角度によっては後方への安定性が低下する場合があります。その場合はシート、バックサポート角度を戻し、車いすを安定させた状態でご使用ください。



ヘッドサポートの取り付け・取り外しと調節

● 取り付けかた

- 1 駐車用ブレーキのレバーを引いて、両輪に駐車ブレーキをかけます。
- 2 左右のラックにヘッドサポートフレームを差し込みます。
* ノブボルトに当たって入らない場合は、ノブボルトをゆるめてください。
- 3 ヘッドサポートの高さを使用者の頭の位置に合わせ、左右のノブボルトを締め付けて固定します。



*ヘッドサポートとヘッドサポートフレームにガタつきがなく、しっかりと固定されていることを確認してください。

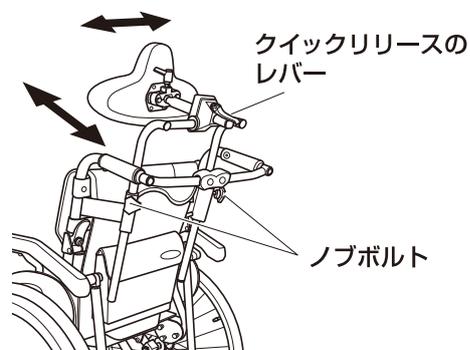
● 取り外しかた

取り付けと逆の要領でノブボルトをゆるめ、ヘッドサポートフレームを上を持ち上げてラックから取り外します。

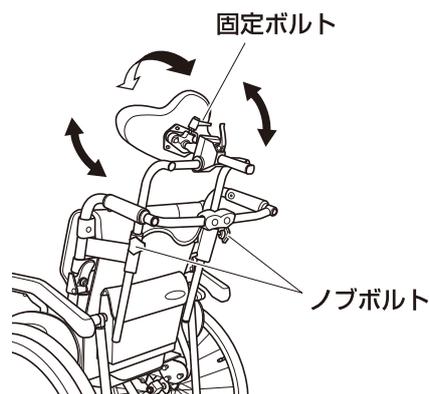
● 位置・角度調節のしかた

使用者の体や状態に合わせて、ヘッドサポートを適切な高さ、位置、および角度になるように調節してください。

- 1 駐車用ブレーキのレバーを引いて、両輪に駐車ブレーキをかけます。
- 2 ノブボルトをゆるめ、ヘッドサポートの高さを調節後、ノブボルトを締め付けてヘッドサポートフレームを固定します。
- 3 クイックリリースのレバーを倒します。ヘッドサポートの位置を左右・前後にスライドさせて調節し、レバーを起こして固定させます。



- 4 固定ボルトのレバーを左回りにまわし緩めます。ヘッドサポートの角度を調節し、レバーを右回りにまわし固定します。



*固定ボルトのレバーを引き上げてまわすと空回りをし、レバーの位置を調節できます。

バックサポートの張り具合調節

△注意

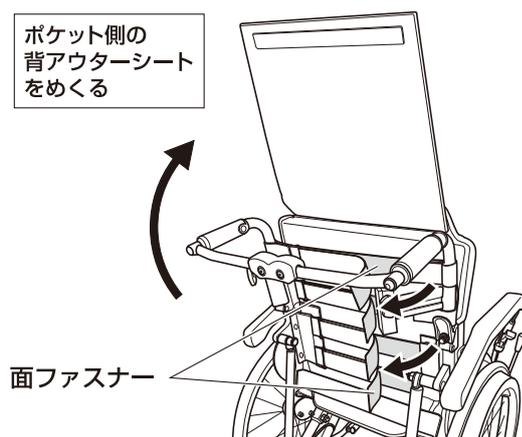
- ・面ファスナーに糸くず、汚れ等がついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。
- ・面ファスナーの張り具合を過度に強くしますと、十分に車いすが開かなくなりフレームの変型の原因になります。

*バックサポートの張り具合を随時チェックし、必要に応じて調節してください。

- 1 駐車用ブレーキのレバーを引いて、両輪に駐車ブレーキをかけます。
- 2 ポケット側の背アウターシートをめくり上げます。
- 3 面ファスナーをはがし、バックサポートの張り具合を調節した後、もう一度面ファスナーをしっかりと貼り合せます。

*手でバックサポートを押し、確実に固定されていて、張り具合が適切であることを確認してください。

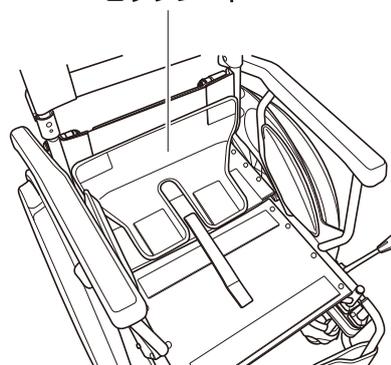
ポケット側の
背アウターシート
をめくる



面ファスナー

- 4 ポケット側の背アウターシートを元に戻します。
- 5 ヒップシートの張り具合も同様に調節します。

ヒップシート



*過度の調節(ゆるめすぎ、締めすぎ)はかえって姿勢を崩すこととなりますので、十分注意して行ってください。

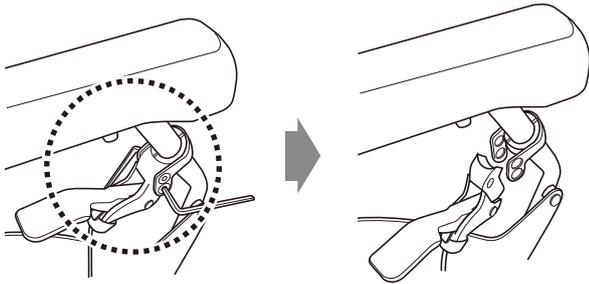
リクライニングレバーの取り付け位置変更

※作業は両輪の駐車用ブレーキをかけた状態で行ってください。

● 取り外しかた

使用工具；六角レンチ 4mm 2本

- 1 リクライニングレバーのボルトをゆるめて取り外します。

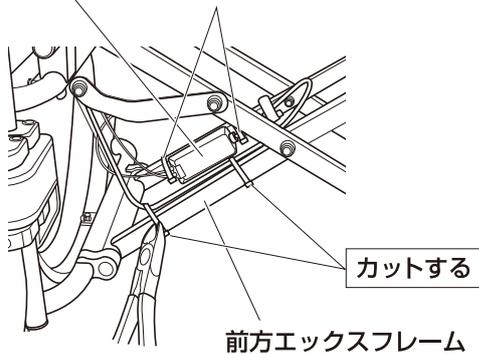


- 2 座面下、前方エックスフレームに付帯しているナイロン結束バンドをニッパーなどの工具でカットし、ワイヤーを外します。(計2か所)

(後方エックスフレームに付帯するナイロン結束バンドはカットしないでください。こちらはワイヤーアダプタが取り付けられています。)

ワイヤーアダプタ

※こちらの結束バンドはカットしない



● 取り付けかた

使用工具；六角レンチ 4mm 2本
ご用意いただくもの；ナイロン結束バンド
(長さ 20cm 程度) 2本

- 3 リクライニングレバーを取り外した時とは反対側へ、図のように取り付けます。

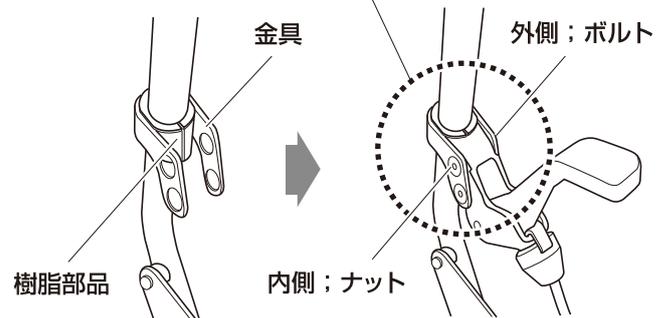
樹脂部品 → 金具の順に取り付け、最後にボルトを締めて固定します。

樹脂部品は接合部が図のような位置にくるよう取り付けてください。

ボルトは、金具の先端 → 金具の根元の順で締めてください。

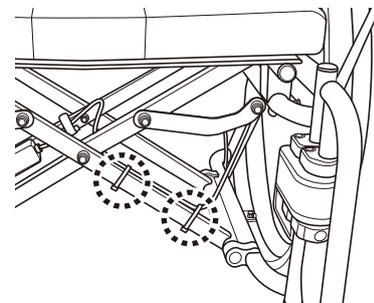
※順番を逆にするとゆるむ恐れがあります。

取り付け位置の目安；
レバーを最後まで握った際、アーム固定のボルトとレバーが触れる程度



- 4 図のようにナイロン結束バンドでワイヤーを固定します。(2か所)

ワイヤーは座面下、前方エックスフレーム上部に沿うようにして取り付けます。



⚠注意

作業後、以下の点についてご確認ください。

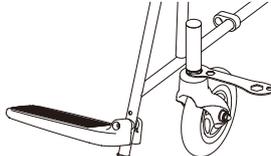
- ・車いす操作時にタイヤ、サイドガードとワイヤーの干渉がないか。
- ・車いす折りたたみ時にワイヤーとフレームが干渉しないか。
- ・ワイヤーが過度に折れ曲がっていないか。

使用上のご注意

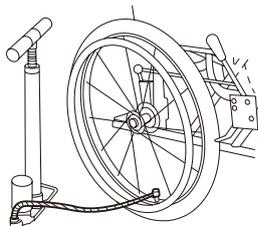
保守・点検

乗車前には必ず下記の事項を点検・整備し、常に安全な状態で使用してください。

* 修理・調整は必ず販売店へ依頼してください。

警告	キャストの旋回軸やキャスト・駆動輪・ブレーキ等は定期的に点検してください。 キャストがゆるんでいるときは増し締めをしてください。 締めつけトルク：15.0～20.0N・m	
-----------	---	---

-  タイヤの空気圧を自転車と同じ要領で補充してください。長時間使用しなくても空気は抜けていきます。空気が抜けた状態で使用すると、タイヤやチューブを傷め、破損する恐れがあります。(タイヤの空気圧はタイヤ側面に明記されています。)
- ブレーキの効き具合が悪いときは、タイヤの空気圧を調整してください。それでもブレーキの効き具合が悪いときは、販売店へ調整の依頼をしてください。
- パンクの場合は、販売店または最寄りの自転車店におたずねください。また、パンクしたまま乗らないでください。
- 使用者の脚の長さに合わせて、フットサポートを適切な高さに調節してください。(地上より50mm以上あげてください。)
- 車いすは熱気、湿気に弱いので、湿気の多い所、外部、自動車内での長期放置や、水のかかる場所、直射日光の当たる場所には放置しないでください。



消耗品、交換部品の確認

注意	交換時期を過ぎての使用は、転落、転倒、衝突などの事故につながる恐れがあります。
-----------	---

それぞれの部品が交換時期になったときは、お早めに交換してください。新しい部品に交換する際は、お買上の販売店へご連絡ください。

消耗品・交換部品

品名	交換時期
駆動輪	タイヤの表面に溝がなくなったとき。タイヤにひび割れなどがみられる場合。
キャスト	表面の摩耗が著しいとき。しっかり締めつけても車輪ががたつくとき。
シート	ほつれ、切れ目が発生したとき。ひどく汚れたとき。面ファスナーの接着が弱くなったとき。
ワイヤー	ワイヤーにほつれ、錆が発生したとき。

お手入れ・保管について

● フレームのお手入れ

- フレームの汚れは、タオルかスポンジに中性洗剤を含ませて拭き取ってください。拭き取った後は、乾いた布で水分を拭き取りよく乾かしてください。
- 水などがかった場合は、乾いた布で水分を拭き取りよく乾かしてください。

使用上のご注意

● シートのお手入れ

- ・シートが汚れた場合は、中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取った後、水で濡らした布で洗剤を拭き取り、その後乾いた布で水分を拭き取りよく乾かしてください。
- ・面ファスナーに糸くず、汚れ等がついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。

● アームサポート、グリップ、サイドガード等の樹脂部品のお手入れ

樹脂部品の汚れは中性洗剤で落してください。

△注意

- ・シンナー、ベンジン等の溶剤は使用しないでください。製品を傷める恐れがあります。
- ・車いすや各部品を乾かすときは、直射日光をさけて陰干ししてください。

● 保管・収納について

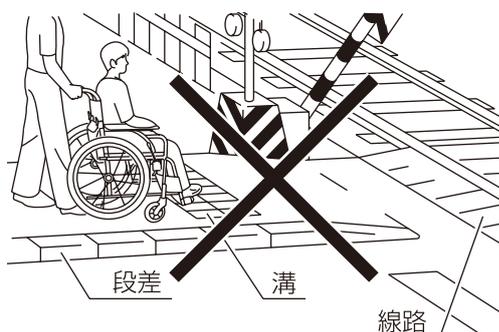
- ・収納スペースが少ないときは、座シート、バックサポートを折りたたんで保管してください。
- ・錆やタイヤのパンク、ガススプリング（ガスダンパー）の不具合や故障を避けるため、湿気の高い場所や室温の上がる場所、直射日光の当たる場所や極端に気温の低い場所には保管しないでください。

飛行機へ搭乗される場合

本製品にガススプリング(ガスダンパー)を使用していることを事前に利用予定の航空会社または旅行代理店へご相談ください。

走行上のご注意

※この車いすは室内用で設計されております。
屋外でのご使用はご遠慮ください。



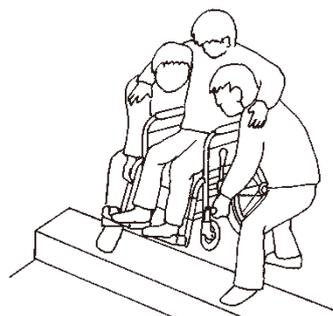
段の上がりかた、下りかた

△警告

- ・リクライニングさせた状態で段を乗り越えたり、スロープを通過しないでください。転倒など事故につながる恐れがあります。
- ・持つ箇所によっては破損や事故につながる恐れがあります。アームサポート、背折れジョイント、フット・レッグサポート、フットサポートなどは持たないでください。

車いすに乗ったまま持ち上げる場合

車いすに乗ったまま持ち上げるときは二人以上で行い、使用者の上半身を支え、フレーム下部を両側からしっかり持ち上げるようにします。



困った時には

車いすをご使用されていて「故障かな」と思われましたら、販売店へ連絡する前に下記項目を確認してください。

症 状	確認点	対 処
車いすがまっすぐ走らない。 斜行する。	路面が傾斜していませんか。車いすは、傾斜面では低い方へ前輪が流れる特性があります。	低い方へ曲がらないように車いすを操作してください。 傾斜面の低い側に当たる駆動輪をより強く回してください。
	駆動輪の空気圧の不足、また左右の空気圧に差がありませんか。	左右の駆動輪を適正な空気圧に調整してください。
	キャストの回転に左右差がありませんか。 キャスト軸の回転がスムーズですか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	キャスト、駆動輪計4輪がきちんと接地していますか。	
駐车用ブレーキが効かない。	駆動輪の空気圧は適正ですか。	駆動輪を適正な空気圧に調整してください。 適正空気圧はタイヤ側面に記載されています。
	駆動輪のタイヤは磨耗していませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	駐车用ブレーキのタイヤ押えが駆動輪にきちんと当たってますか。駐车用ブレーキがガタついていませんか。	
駆動輪に空気はいらない、すぐぬける。	適正な空気圧で補充していますか。	駆動輪を適正な空気圧に調整してください。 適正空気圧はタイヤ側面に記載されています。
	トップナット（コア押さえ、バルブナット、バルブスリーブ）がゆるんでいませんか。	締め付けてください。
	タイヤチューブのパンク、バルブやムシゴムの消耗はしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
異音がする。	本体や車輪とオプション品、アクセサリなどとの干渉はしていませんか。	車いすに取り付けて使用するカバンなどは駆動輪など回転する箇所と干渉しないようにしてご使用ください。
	可動部分の錆び・磨耗・汚れ・油きれなどによっておこる摩擦音がしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	ボルト類のゆるみ等がおきていませんか。	
	フレームに歪みが発生していませんか。	
車いすが開かない。	バックサポートの張り具合を締めすぎていませんか。	バックサポートの張り具合を調整してください。
リクライニングの動きが悪い。	ワイヤーチューブが、折れ曲がったり、引っ掛かったりしていませんか。	インナーワイヤーがスムーズに動くように、ワイヤーチューブの取廻しを修正してください。改善がみられない場合は、お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	ワイヤーが伸びたり、切れたりしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。

アフターサービス

- ・ 万一故障の場合は、お買上の販売店、または弊社へこの商品の品名および故障状況をご連絡ください。
- ・ 保証期間内の場合は、保証書の提示が必要となります。

保証

- ・ 保証内容につきましては、同封の保証書をご覧ください。
- ・ 保証期間終了後の修理については、お買上の販売店、または弊社へお申しつけください。
修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有償修理いたします。

仕様

単位：mm

	STS-1
フレーム材質	アルミ
シート材質	ポリエステル、ナイロン、PVC
アームサポート	ウレタン
サイドガード	樹脂
グリップ	エンボスグリップ
バックサポート	テンション調整
背折れ	あり レバー式
フット・レグサポートタイプ	開閉式(スイングアウト)
フットサポート	ポスト式
キャスト	4" (黒)ワイド
タイヤ	エアータイヤ
制動用ブレーキ	なし
ハンドリム	フィットグリップ ハンドリム(黒)
駐車用ブレーキ	ST ブレーキ 標準

品番	STS-1
駆動輪径	22 インチ細エア
キャスト	4インチ ソフトフォーミングワイド
前座高	450 (400)※1
後座高	450 (400)※1
シート奥行	400
シート幅	400 ※2
バックサポート高	380 (430)※1
フットサポート・シート間距離	360～390 (310-340)※1
アームサポート高	220 (270)※1
全高	985～1255 (860)※3
全幅	615
全長	1050
折りたたみ全高	685
折りたたみ全幅	370
折りたたみ全長	840 (1030)※4
リクライニング角度	100～117°
ティルト角度	0° (0～15°)※5
重量	24.2kg

- ※1 括弧内はアウターシート無し
- ※2 シート幅はアームパイプ内々の幅です
- ※3 括弧内はヘッドサポート取り外し時
- ※4 括弧内はスイングアウトを取り付けた状態
- ※5 括弧内は座面後部のみ、リクライニング時に連動

静的安定性試験方法 (弊社では JIS T9201 10.1.2a 方法によって試験を行っています。)

キャストが交換可能な場合、推奨するキャスト径は上記キャスト径になります。駆動輪・主輪のボルトとナットは、インチねじ (UNF 1/2-20 山) 仕様になります。

製造元

 Wheel Chair
Miki 株式会社 ミキ

〒457-0863 名古屋市南区豊三丁目38番10号

車いすの廃棄については、最寄りの行政担当窓口におたずねください。